

迫害に抵抗する信仰者たち

ダニエル書11章

彼は契約を破る者どもを、巧言をもってそそのかし、そむかせるが、自分の神を知る民は、堅く立つて事を行います。(32)

ダニエルが見せられた幻が続いています。ペルシヤ帝国以降の国々の興亡、ユダヤ教に対する迫害、反キリストの出現などが記されています。

その中で、ユダヤ教に対して激しく迫害を加え、反キリストの型として登場するシリヤの王安ティオコス・エピファネスについて詳しく書かれています。彼は二度にわたるエジプト遠征の帰途、エルサレムに立ち寄り、神殿を汚し、多くの民衆を殺します。そしてギリシヤの宗教に改宗しなければ死を与えると人々を脅迫したのです。このとき、民衆の反応は二つに分かれました。エピファネスの誘いについての主に對する信仰を捨てる者たちと、激しい迫害にもかかわらず命をかけて信仰を守り通した者たちでした。エピファネスの甘い言葉に唆されたのは、もともと主の律法を破っていた者たちでした。普段から神の言葉を軽んじていた者たちは、いざというときにあつさり信仰を捨ててしまったのです。これに對して、「この方こそ世界を治める眞の神である」と信じる者たちは、主への信仰を捨てず、死をも恐れずに信仰を守り通しました。大きな困難にあつても、信仰が彼ら自身を支えたのです。

迫害に遭つたときにどう対処するかではなく、今ここで、主に對する確かな信仰を築いていきたいものです。平時の信仰が非常時のわたしたちを支えるからです。